

## 大学における映像・音声メディアの戦略的利用に関する事例調査

大杉, 卓三  
九州大学大学院比較社会文化研究院

<https://doi.org/10.15017/9501>

---

出版情報：比較社会文化. 14, pp.105-109, 2008-03-20. 九州大学大学院比較社会文化学府  
バージョン：  
権利関係：

調査レポート：  
大学における映像・音声メディアの  
戦略的利用に関する事例調査

大杉卓三\*  
Takuzou OSUGI

ABSTRACT

The development of information and telecommunication technology has enabled individuals to create multimedia contents which can be broadcast either as TV/radio programmes or movie/audio files. Nowadays an enormous amount of contents have been created by individuals with a PC, choosing the appropriate media where they are available, such as TV, radio and Internet. Corporations and other organizations which have been traditionally making use of only paper media for their advertising activities are now required to include multimedia ones into their activities. Universities are by no means an exception in this sense. There are already cases in which universities broadcast their own programmes through cable TVs or on Internet, and such initiatives will be even more relevant in the future for any university. There even exists a university which adopts a new method to allow students to get graduated only by way of e-learning. However, it should be taken into account that universities should make efforts on the intellectual contribution to the local community where they are based and on the assistance of the improvement of community's information sending capacity.

キーワード

地域メディア 大学 広報 市民メディア eラーニング

この調査レポートは九州大学 教育研究プログラム・拠点形成プロジェクト(P&P)に採択された「大学における映像・音声メディアの戦略的利用に関する調査研究」においておこなった調査について報告するものである。情報通信技術の発展により、映像・音声を使用したコンテンツの制作は、技術的には容易なものとなった。コンテンツは、テレビやラジオにおいては番組として、インターネットではホームページからの動画や音声ファイルとして放送もしくは配信することが可能である。パソコンを使うことで個人でも作成可能となったコンテンツは、テレビ、ラジオ、インターネットというメディアを選択しながら、流通量は増大している。これまで紙のメディアのみを広報活動などに利用してきた企業などの団体は、映像や音声によるコンテンツを積極的に広報活動に取り入れつつある。これは大学も例外ではない。既に大学がケーブルテレビやインター

ネットでも自主制作番組を放送している事例はあり、全ての大学においてこのような取り組みは今後重要性を増すだろう。また、インターネットを使用しeラーニングのみで卒業可能という新たな方式を採用する大学も誕生している。ただし、大学の存在の意味を考えた場合、単なる広報活動だけのために取り組むのではなく、大学が立地している地域社会への知的貢献や、大学が地域の情報発信能力の向上を支援する活動の一環、といった視点も考慮すべきである。

この調査レポートでは、映像や音声コンテンツの制作・配信や、eラーニング形式の講義を採用するなどの先進的な取り組みをしている大学の事例を調査した内容を報告している。信州大学テレビ、中央大学、東海大学の事例は、映像コンテンツをケーブルテレビなどを使い大学の広報や地域への知的貢献として活用している事例であり、サイバー大学、八州学園大学はインターネットによるオンラインの

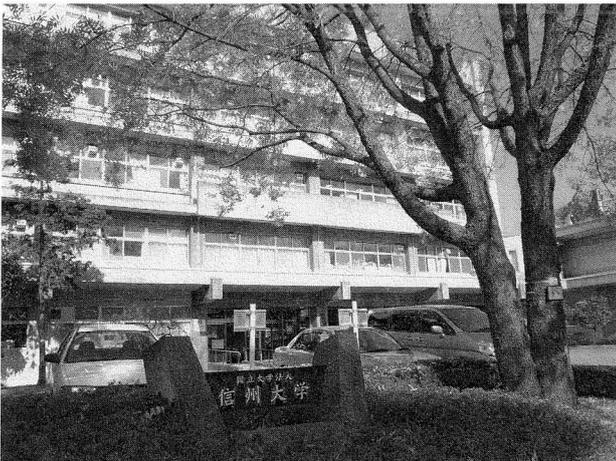
\* 九州大学大学院 比較社会文化研究院 助教

講義の受講のみで卒業単位の全てが取得できる新しい大学の事例である。これらの事例の詳細について、またここでは報告できていない多くの事例については九州大学 P&P 「大学における映像・音声メディアの戦略的利用に関する調査研究」報告書にまとめる予定である。

## 信州大学テレビ

信州大学テレビとは、2006年10月からテレビ松本ケーブルテレビジョンで放送が開始された信州大学によるケーブルテレビのチャンネルのことである。番組やプログラムではなく1つのチャンネルの全てが信州大学により制作されている。これは日本初の取り組みである。番組内容はとしては、大学トピックス・イベント情報、生涯教育番組（授業公開、出前講座、公開講座）、病院情報、教員への取材番組、学生制作のバラエティ、ドキュメンタリー番組、その他には信州大学のさまざまな施設や活動の紹介など、となっている。番組の制作はキャンパスブリッジ、ディー・スタイル、スタジオ・ライズ、の3つの学生サークルがおこなっている。信州大学のユニークな取り組みは信州大学学長とテレビ松本ケーブルテレビジョンの社長の発案により開始されたもので、今後は信州大学の事例を参考にした事例が全国の大学でも誕生することだろう。信州大学にはメディア関連の学部などがあるわけではないため、チャンネル全ての番組を信州大学が制作するには、継続的な番組制作体制の構築をどのようにおこなうのが課題となるだろう。

写真1：信州大学広報・情報室



信州大学テレビは、ケーブルテレビの1チャンネルを使い毎日放送しているが、現在のところ学内にテレビだけを専門に担当する部署は無く、広報・情報室の職員が担当している。



写真2：番組制作をおこなうスタジオ・ライズ活動の様子  
信州大学テレビの番組制作をおこなう3つのサークルのうちの一つスタジオ・ライズが活動する部屋の様子。公認サークルという訳ではないので公式な部屋は割り当てられておらず、そのかわりに本来は図書館長室である場所を間借りして使用している。



写真3：テレビ松本ケーブルテレビ

信州大学テレビを放送しているケーブルテレビ会社であるテレビ松本ケーブルテレビジョンの社屋。信州大学テレビの送出はハードディスクを搭載した小型プレーヤーから行われ、その装置はケーブルテレビ会社に設置されている。

## 中央大学「知の回廊」

中央大学の「知の回廊」は、中央大学が地元のケーブルテレビ局である JCN 八王子テレメディアに制作委託をして作成している教養番組である。年に6本が制作されており、内容は教員の研究をテーマとしている。講演や講義を録画する形式の番組ではない。「知の回廊」の制作、そして放送は大学の社会貢献を目的とし、2001年度から放送を開始された。放送は JCN 八王子テレメディアだけで行われているわけではなく、全国約40のケーブルテレビ局で放送

されているため、広報としての役割も十分に果たしていると思われる。「知の回廊」をJCN八王子テレメディア以外のケーブルテレビが放送するのに番組使用料は必要ない。そのためケーブルテレビ局としては中央大学制作の教養番組を無料で放送でき、また中央大学としては番組が全国で放送されることで大学の広報となる仕組みである。



写真4：中央大学多摩キャンパス本部棟の入試センター  
中央大学入試センターにあるホームページの編集などをおこなうブース。中央大学では、動画コンテンツの制作ができるスタッフが勤務している。



写真5：中央大学のスタジオの一部  
「知の回廊」の制作はJCN八王子テレメディアに委託しているため中央大学のスタジオ設備を使用するわけではないが、学内のIT部門にもスタジオがあり映像収録が可能である。



写真6：JCN八王子テレメディアが入居するビル  
オフィスとスタジオ、送出装置類が設置されている。八王子駅の駅前すぐに立地している。

### 東海大学文学部広報メディア学科

東海大学には、文学部に広報メディア学科というユニークな名称の学科が開設されている。単なるメディア学科ではなく「広報」という単語を含む。広報メディア学科は湘南キャンパスにあり、広報メディア学科の活動として学生が制作した番組を地元のケーブルテレビ局やFM局などで放送する取り組みをおこなっている。ホームページなどでも情報発信しているが、放送としてはドキュメンタリー「東海大学ミネスタウエーブ」、東海大学インフォメーション「キャンパスパレット」、「こちらラジオ番組制作部」を制作している。番組制作に取り組む団体は東海大学メディアコミュニティ(tmc)である。東海大学メディアコミュニティ(tmc)は、東海大学チャレンジセンターの学生支援事業に採択された活動であり、そのため東海大学から活動サポートを受けて活動する学生団体である。作成した番組は、文学部映像委員会によるチェックを受け、問題なければ放送される仕組みになっている。



写真7：文学部広報メディア学科の校舎  
東海大学湘南キャンパスの3号館。地下にはスタジオ設備、  
編集室が備わっている。

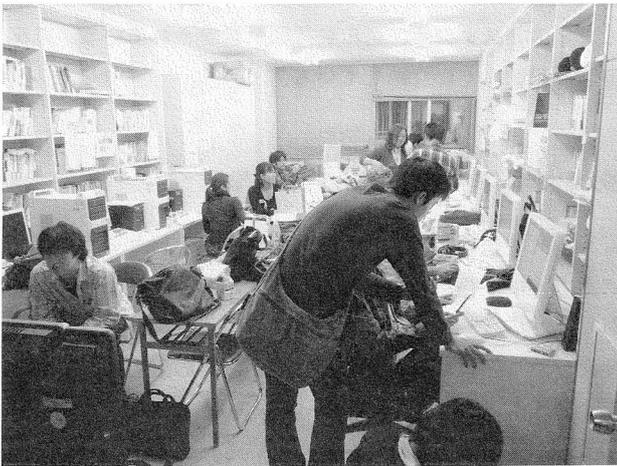


写真8：東海大学メディアコミュニティ (tmc) の活動の  
様子

この部屋は部室ではなく、本来は水島久光教授の研究室を  
使用している。

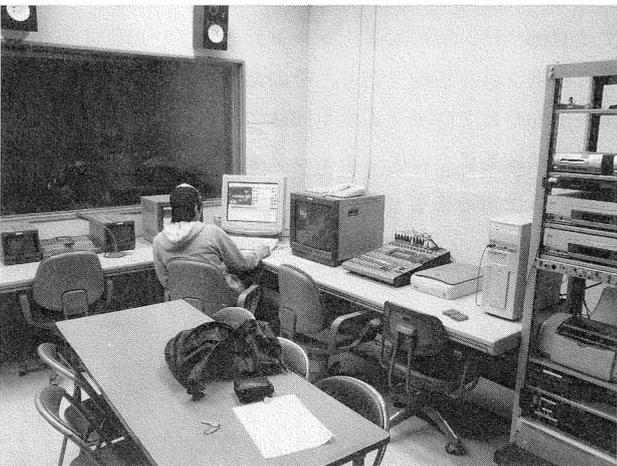


写真9：東海大学文学部のスタジオの編集室  
地下のスタジオにある編集設備。この部屋の奥にスタジオ  
があり、ブルーバック用のスクリーンや、クレイアニメー

ション撮影用の機材もある。

## サイバー大学

サイバー大学はインターネットを通しての講義のみで卒業が可能な通信制の大学である。福岡市の人工島に福岡キャンパスを構える。福岡市の経済特区を利用しており株式会社の大学である。スクーリングは一切無くインターネットのみで全ての講義を受講できる仕組みであるため、キャンパスといってもここを訪れる学生はほとんどいない。実際にこのキャンパスに学生が集まるのは、オープンキャンパスの説明会や、入学式などの式典の時だけである。講義は全てオンデマンドによるeラーニング形式であり、2週間の期間内にいつ受講しても良い。学生はグループウェアの掲示板などの仕組みにより、教員への質問や、学生間のコミュニケーションを取ることができる。そうすることで、単なるテレビ講座のように聞き流してしまうだけに終わることが無いよう工夫が凝らされている。現在はIT総合学部と世界遺産学部の2学部である。学生は1講義ずつ受講料を支払うためコスト意識が非常に高く、講義を休む学生はほとんどいないとのことである。講義の収録に使用されるスタジオはキャンパスではなく、サイバー大学の株主であるRKB毎日放送のスタジオで行われる。

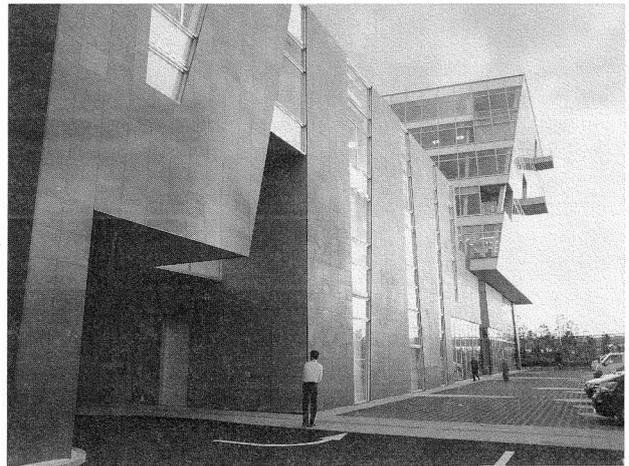


写真10：サイバー大学の入居するビル

福岡市の人工島である「ふくおかアイランドシティ」にあるビルにサイバー大学は入居している。講義を収録するためのスタジオはRKB毎日放送のスタジオを利用するため、このビルにはスタジオはない。



写真11：オープンキャンパス時の受講体験の様子  
アイランドシティにあるキャンパスに学生が来ることはほとんど無いが、オープンキャンパスには多くの人を訪れ、年齢層は高校生から高齢者まで幅広い。



写真12：サイバー大学の研究者ブース  
数名の教員のみがここで研究活動をおこなっているが、ほとんどの教員はこのブースにはいない。会議はインターネットによる遠隔会議で行われる。

## 八州学園大学

2004年に日本で初めてインターネットによる遠隔講義の受講のみで卒業できる大学として開講したのが八州学園大学である。学生の対象を社会人の生涯教育としている。前述したサイバー大学も開講に際して八州学園大学の取り組みを参考にしてている。キャンパスは横浜駅から徒歩数分にあるビルである。大学卒業資格だけではなく、「社会教育主事」「図書館司書」「博物館学芸員」「家庭教育アドバイザー」他の資格の取得も可能となっている。一見、サイバー大学と同じ形態の講義と思われがちであるが、八州学園大学はオンデマンドの講義ではなく、基本的には講義はリアルタイムで受講する形式である。その際、教室にきて受講して

もよいし、インターネットを利用し自宅などでオンライン受講してもよい。このような講義形態のために、キャンパスとなるビルには一般の大学とおなじ講義教室があり、そこに映像配信用のカメラやタブレット類の機器が備わる。



写真13：八州学園大学のビル  
もともとはIT（情報通信技術）企業のビルが、八州学園大学のキャンパスとなっている。横浜駅から徒歩で通学できる立地である。このビルに教室や研究室がある。

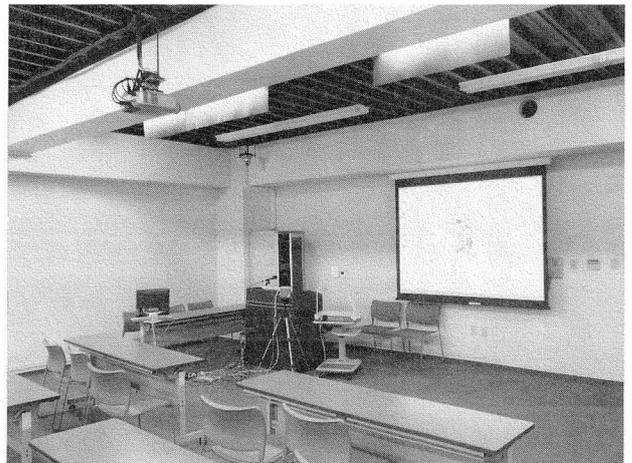


写真14：八州学園大学の教室  
八州学園大学は教室への通学をせずにオンラインで講義を受講することができるが、講義はリアルタイムで教室を使い行われている。通学して講義を聴く学生もいるため、教室は一般大学の情報設備のある教室の様子に近い。